

2015年9月19日はダナン工科大学創立40周年記念日であり、ベトナム戦争終結から40年という節目でもありました。それぞれの国が、ときに苦しい過去を背負いつつ、新たな国づくりにはげみますが、まさにそのような時に今のベトナムはあると思います。ハノイ、ホーチミンに次ぐ第三の都市である中部ベトナムのダナンは100万人都市であり、経済成長では目下、ベトナム第一位であると聞きました。その活気が街にみなぎっています。

ご縁あり、2015年9月18日に、星学長列席のもと、本学とダナン工科大学との交流締結の調印がなされたことは喜ばしいことでした。またこの機会に学生間の交流を願い、現地でワークショップを開催することができたのは、ダナン工科大学の先生方のご尽力に寄る所が大きいのです。

あれから1年半、この3月にDUTを再訪し、先生方とのうれしい再会がありました。私にとっては4回目の訪問であり、信頼関係を築くことができた実感します。WSのために日本からの参加学生は8名。ベトナムから24名の参加がありました。そして日本人2名にベトナム人学生6名で計8名のチームが4つ構成され、ダナン市を流れるココ川の修景計画が与えられました。学生の報告にあるように、ワークショップの進め方は、日本と同様に、現地調査に始まり、問題点の洗い出し、それぞれの考え、アイデアを文字や絵ことばにまとめていくというものでした。私たちは今回、現地では調達が難しい模型材料を大量に持参していき、周辺模型を含め、ベトナムの学生たちがその扱いに慣れながら、模型でのスタディに親しんだことは一つの成果でしょう。彼らは逆に普段はパソコン上で表現しているので、日本人学生がその点勉強になったと思われます。何よりハングリーで、すぐ絵におこしてみる、模型を作成するなど、ベトナム人学生の行動力・機動力に衝撃を受けました。その受けた衝撃を、良き意味で前橋の学生たちに伝え、鼓舞していくことを願います。今回、B4、M2の学生は合間を縫って、自身の研究発表をする機会もつくりました。DUTのある先生が「もっと聞きたい」という感想を私にもらしたことが印象的です。

これからの時代に外国の人々との交流が益々盛んになるでしょう。言葉の問題は大きいことは明らかですが、伝えたい気持ちを内実として持つことができれば、おのずと言葉の障壁は乗り越えられるでしょう。日々考え、その考えを友人、教員と語り合う、そのような姿勢が大切であり、来年度以降の相互交流に反映させていきたいと思えます。

2017年4月